

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

- 1 確かな学力を携えて、社会に貢献できる多様な人材を育成する。
- 2 それぞれの夢に展望を持たせ、自らの力でそれを実現できる生徒を育成する。
- 3 他者の痛みがわかる、やさしく心豊かな生徒を育成する。
- 4 美化意識や規範意識を高く持ち、自己管理が出来る生活習慣を確立できる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 地域に根差した高校として、確かな学力の育成することでそれぞれの進路実現に対応する
 - (1) 進路目標を意識し、アクティブラーニング等の手法を利用した「わかる授業、考える授業」をめざした授業改善に取り組む。
 - ア 相互授業公開や研究授業、学校教育自己診断、授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 27 年度 84%）を毎年引き上げ、平成 29 年度には 90%にする。
 - イ 可能な範囲での進路目標ではなく、それぞれがより高い進路目標をめざす。
※国公立大学、公務員就職者などは少なくとも一人ずつ、難関大学、看護学校などの合格者は 30 名以上輩出する。
 - (2) 普通科専門コースへ改編を見据え、近隣中学校や私塾連合にアプローチをする。
 - (3) 教育活動とその成果を地域に発信していく。
- 2 思いやりの心を育てる
 - (1) 人の気持ちが理解できる人権教育を進める。
※対人関係に起因するトラブルを（平成 27 年度 2 件）を 0 件にする。
 - (2) 教育目標を具体化する組織を効果的に活用する。
※SP会議（将来構想等担当）、PT会議（再編整備関係）、学習発表会担当者会議、一斉配信担当者会議などの定期的な開催。
- 3 心安らげる学校づくり
 - (1) 規範意識をさらに醸成する。
 - ア 遅刻・早退・欠席はもちろん、基本的な生活習慣を確立する。
※全学年年間遅刻件数（平成 27 年度 6,474 件）を毎年 500 件ずつ減らし、平成 30 年度には 5,000 件にする。
 - (2) 美化意識を醸成し、清潔で整備された心地よい安心・安全な教育環境を実現する。
 - ア 日々の清掃活動の充実を図り、施設の維持管理や設備の更新に積極的に取り組み良好な環境づくりをめざす。
※有志による清掃活動参加率（平成 27 年度 15%）を毎年 5%ずつ増やし、平成 30 年度には在籍生徒数の 30%にする。
 - イ 火災だけでなく、地震や津波などを想定した防災教育を積極的に行い、防災グッズを少しずつ備えていく。
※定期的な防災訓練の見直しに加え、府や市の防災訓練などにも積極的に協力し、防災への備えを充実させる。
 - (3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成し、学校生活の充実と学校への帰属意識を高める。
 - ア 部活動やボランティア活動を通じて、集団の中で活動することの重要性を見出さす。
※部活動参加率（平成 27 年度 44%）を毎年 5%ずつ引き上げ、平成 30 年度には 60%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>■生徒アンケートの結果</p> <p>1. プラス評価が高かった項目 『よくあてはまる、及び、ほぼあてはまる』というプラスの評価が 7 割以上を占める項目は、自分のクラスは楽しい(80.9%)、自分は授業に集中して取り組んでいる(74.2%)、服装や頭髮の指導がきちんとされている(75.5%)、自分は、校則やマナーを守っている(90.5%)、自分は教室、廊下、トイレなどの清掃をきちんとしている(72.2%)であった。クラスの 8 割の生徒が、学校やクラスが楽しいと感じてくれているのは大変好ましいことである。しかし、2 割弱が逆の意識をもっており、4.4%が全く当てはまらなと答えているので、クラスに 1～2 名はまったく楽しくないと思っている生徒がいることになる。このように、良い値だけに目を奪われることなく、少数生徒の「困り感」にも寄り添って見守っていききたい。このような数値を「0」に限りなく近づけていく努力が必要である。</p> <p>2. マイナス結果が出てしまった項目 『あまりあてはまらない 及び、全くあてはまらない』、つまり、マイナスの傾向のある課題を抱えた項目を拾い出してみると生徒会活動、部活動、地域連携となった。</p>	<p>第 1 回（6 月 2 日実施）/第 2 回（10 月 13 日実施）/第 3 回（1 月 26 日実施）</p> <p>1. 確かな学力の育成</p> <p>○「進路指導部とガイダンス室による基礎学力の定期的な測定（外部模試の実施）とその結果の教科などへのフィードバック」および「28 自己診断結果まとめ＋コメント」内の実力診断テストの活用について。テストを実施するだけでなく、教科へのフィードバック、クラス担任教員への進路指導での活用についての研修会を平成 29 年度には実施をすることで、より生徒、教員ともに活用が進み、進路指導の充実をはかれるのではないかと思います。（研修会等を実施したらどうか?）</p> <p>○普通科総合選択制アンケートから、アクティブラーニングの基礎となる、考える力・表現する力・コミュニケーションをはかる力の育成が必要と思われる。今後の取り組みを通して、社会で適用する人材の育成を図ってほしい。</p> <p>○全体的に各学年において学習意欲が高いように伺える。さらに向上することを念頭に教員と生徒の意識改革をテーマにすることも必要。1～3 年生の 3 年間における生徒指導を見ると一部の生徒を除き一定、安定してきていると評価できる。今後は、1 年生における徹底した指導を行うことが 3 年間の学校生活が楽しめることになると考える。</p> <p>今年、進学率 7 割、就職率 3 割、と若干就職者が増えてきたと思う、その中でも進学者にあっては頑張って上をめざす生徒が増えている。教員の取り組み</p>

生徒会活動については、記述部分でも、文化祭や体育祭などの学校行事の改善、球技大会の新設などを具体的な内容をあげる訴えが目立ったので、行事後の反省やアンケートを活用し、より具体的な要望などの内容を明らかにし、次年度に生かすように対処した。

また、球技大会については、今年度3学期に各学年でLHRなどを活用して、すでに実施した。次年度はできるだけ年度当初に計画し行事予定に入れる予定である。

わかる授業や生徒指導への意見や要望については、アクティブラーニングに関するアンケート、授業力向上自己診断アンケートなどを実施し、教頭で集約し、課題の洗い出しと具体的な改善点を明確にできるように努めた。その結果についても教員間で共有した。

すでに取り組んでいる教員もいるが、次年度の自己申告の中に明示してもらえらると思う。

地域連携については、通学路清掃(年間2回実施、参加ボランティア生徒、のべ260名参加)、地域老人会との交流(30名参加)、その他、保育園等との交流など実際の活動はあるが、広報不足は否めない。さらに活動を充実させることはもとより、地域に発信し、校内の理解も高めていきたい。

3. その他 (気になるところ)

高校生は、教員とは距離を置き始める年代ではあるが、「悩みや相談に親身になってくれるか」と「診断テストが進路に役立っているか」という項目のポイントがあまり高くないのが気にかかる。

■保護者アンケートの結果

1. プラス評価が高かった項目

子どもはクラスが楽しいと感じているようだ(81.0)、服装や頭髪の指導がきちんとされている(75.6)、子どもは校則やマナーを守っている(86.1)、先生は、子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる(72.1)、子どもは文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に楽しんで参加している(74.4)、子どもは教室、廊下、トイレなどの清掃をきちんとしているようだ(75.6)、りんくう翔南高校のPTA活動は活発であると思う(87.9)などの項目のポイントが高くなっている。特に、「子どもはクラスが楽しいと感じているようだ(81)」と「校則やマナーを守っている(86.1)」の項目は生徒と一致している。ただし、記述部分等でも、生徒会活動・部活動、行事の改善の他に、生徒指導や地域連携など多様な指摘もあり、真摯に受け止めて積極的に改善していきたいところである。担任や教科担当を中心に、アンケートだけでは十分拾い切れない声を聞き取っていければと思う。

■教員アンケートの結果

「子どもはクラスが楽しいと感じているようだ(94.1)」と生徒や保護者の見解と一致する項目があると同時に、生徒指導はきちんとしている(86.5)が生徒は校則やマナーを十分守っていないのではないかという結果になっている。進路指導や人権啓発活動、災害避難訓練などの項目では、教員の努力感と生徒や保護者の受け止め方の感覚にギャップがあるような結果が出ている。生徒や保護者と一体になっていく学校教育活動や指導の工夫が求められる。また、部活動の活性化や組織力、教員の熱意を高めるべきだという指摘もあった。

本年度は、生徒の主体性と協働性を大切にしたアクティブラーニング(または、アクティブラーニング的な授業)への取り組みを重点目標に掲げてきたが、その意義は感じつつも、教科の特性や本校生徒の現状において、今年度については取り組みに苦労している状況が浮き彫りになった。本校生徒にあった効果的な授業として教科や校内全体で研修を実施し、情報を共有し工夫を加え、より一層組織的な取り組みとして強化し定着させていきたい。

を評価する。今後も努力を!!

○全体として、生徒は落ち着いて大切な3年間を過ごせていると思う。より充実した自己実現ができるよう、めざしてほしい。

○地域の行事などの参加の際、生徒が思うより周り(地域)の人たちは見ている。その評価は年々高くなっているようなので、引き続き頑張ってほしい。

○教員のICT活用能力を高めて、効率的効果的な授業が展開できるように努めてほしい。

2. 思いやりの心を育てる

○全体的に楽しく学校生活が送れているとかがえる。生徒間の連携やなにかま意識が高いと聞く。高校生らしく社会人に向けた心の準備が必要だと思うので、そのあたりも頑張ってほしい。

○SNSなど、目に見えにくいところでの問題など指導が難しいことも多いと思う。SNSとの付き合い方を指導するなどの教育を推進すべきだろう。

3. 心安らげる学校づくり

○自己診断結果から校則やマナーを守ろうとする意識の定着が見られ、懲戒件数からも学校の取り組みの成果が見られる。今後、地域との連携を図り、生徒を理解してもらい取り組みを通して、地域にとっても安心できる学校づくりをお願いしたい。

○学校全体においては、8期生を迎えて、りんくう翔南としての生徒のカラーができたと思う。

学校編成が今後、行われる中、更なる学校の特色を根付かせていくことが必要。卒業生を迎えて講話等に取り組むことも検討するとよい。

○落ち着いた学校になってきている。良くも悪くも生徒たちは、本当に素直に楽しく3年間過ごすことができている。より一層、積極的に自分の人生の方向について考え、実践していくことができる生徒を育てていただける学校であってほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
一 確かな学力の育成	<p>(1) 「考える授業、参加する授業」を想定した授業改善</p> <p>(2) 普通科専門コースへのスムーズな改編</p> <p>(3) 教育活動とその成果を地域に発信</p>	<p>(1)・授業研究週間を中心に、授業相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング等の授業手法の研究・実践。 ・授業支援や進路指導のため ICT 機器の利用拡大。 <p>(2) 進路指導部とガイダンス室による基礎学力の定期的な測定（外部模試の実施）とその結果の教科などへのフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前補習や進学希望者補習の実施とともに、特講（進学補習）実施内容の充実や夏期進学集中講座の拡充 ・大学・短大・専門学校との連携推進 ・国公立大学や難関大学に毎年一人は合格させる。 ・それぞれの進路実現のサポート（一つ上の進路目標を意識する） ・夏期自主勉強週間の参加を呼びかけるなど一層自主学習を促す ・英語をより身近なものとするため、国際交流行事を取り入れる <p>(2)・中学生・近隣私塾生へのアプローチ</p> <p>(3)・学習発表会での成果発表や普段の授業の公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校・地域のお年寄りなどへ本校教育活動の紹介と連携強化 	<p>(1)・授業アンケート結果微改善。（平均 H26:2.99 → H27:2.99）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“自分を表現する力” 60% (H27:54%) “プレゼンテーション能力” 55% (H27:50%) を身につけることを目標にする。 ・ICT 機器活用年度末調査で満足度を 60%にする。（平成 27 年度 49.9%） ・国公立大学や公務員合格を絶やさない。（平成 27 年共に 1 名） ・進路未決定者（進学浪人を含まず）を 10%以下にする。（平成 27 年度 13 人 5.9%） <p>H28 3 月末時点未定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏期自主勉強会参加生徒数のべ 100 人以上にする。（H27:85 名） <p>(2)・中学校・近隣私塾へのアプローチ回数。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページへ公表頻度。 ・学校ホームページのイベントごとの更新頻度 ・交流行事の回数（年 5 回） ・授業外部公開（年 2 回） 	<p>(1)・授業アンケート結果 H28 前期 3.02、後期 3.01 より ICT 活用や相互の授業研究などから授業改善が見られた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科総合選択制高校アンケート結果の“自分を表現する力” 52.8% “プレゼンテーション能力” 53.9% “コミュニケーション能力” 64.4% より目標としていた能力が徐々についてきた。(◎) ・ICT 機器活用については年々拡充しており、来年度からはタブレットも準備し、さらに授業への活用が進むと考えられる。 ・センター受験 3 名。結果、来年度再挑戦。 ・求人票の数に増減はない割に就職一次内定率が 84.6%と好調であった。難関大学に公募推薦入試で 3 名合格が出るなど進路結果も好調。進路未決定者も増えはしない予想をしている。(◎) ・夏期自主勉強会に参加した生徒数のべ 30 人。監督を学年別に行わないなど実施体制について見直す方向である。(△) ・アメリカの高校生と国際交流を行った。(○) <p>(2)・中学校進路担者の会合での改編についての説明や近隣私塾へのアプローチの結果、第 2 回学校説明会に例年の倍以上の中学生が集まった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校改編に伴い学校 HP も大幅リニューアルを行った。それぞれの情報は各担当で逐一更新した。(○) <p>(3)・近隣の子育て中のお母さんやお年寄りの方々との来校実習、近隣の保育所の避難訓練、アメリカの高校生との国際交流など行事の回数は 5 回をはるかに超えた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業外部公開は予定通り 2 回実施。(◎)
二 思いやりの心を育てる	<p>(1) 人の気持ちが理解できる志学や人権教育の計画立案</p> <p>(2) 教育目標を具体化する組織を効果的な活用</p>	<p>(1)・志学、キャリア教育を想定した総合的な学習の時間やホームルーム活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣例にとらわれないテーマや新しいジャンルから見つめなおす人権教育 ・ICT 機器（一斉配信システムや教室ディスプレイ）を利用した志学や人権教育教材活用の充実 ・生徒の人間関係の変化を見逃さず、修学支援委員会やいじめ対策委員会等を活用し教職員間でより綿密な情報共有の場を設ける。 <p>(2)・プレゼンテーション能力育成のため実施してきた学習発表会をさらに充実させるため担当者会議の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再編整備のためのプロジェクトチームの会合を充実させることで将来本校を担う人材の育成を図る。 	<p>(1)・学校教育自己診断による志学やキャリア教育の成果を測ると同時に生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」：“よくあてはまる” + “ほぼあてはまる” 項目）を 90%にする（平成 27 年度 84%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な人権テーマを扱った HR や職員人権研修を年 2 回以上実施する ・ICT 機器を有効に活用した人権教育を年 2 回実施する。 ・対人関係に起因するトラブルを 0 件にする。（平成 27 年度 2 件） <p>(2)・各会合を月 1 回実施する</p>	<p>(1)・「自分のクラスは楽しい」項目は 80.9%。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR では「視覚障がい者理解」「人権啓発標語」「喫煙防止教育」「国際理解教育」「認知症サポート」「パーソナルファイナンス」、職員研修では「SSW」「SNS」についてなどを行った。(◎) ・DVD 教材や PP コンテンツを利用した人権教育を数回実施した。(◎) ・対人関係に起因するトラブル 2 件。(△) ・修学支援委員会、いじめ対策委員会共に月 1 回以上実施し、情報共有の場を頻繁に設けた。(○) <p>(2)・担当者全体会は 4 回であったが、普総選アンケートによる“プレゼンテーション能力”の項目が 3 年連続 5%ずつ上昇し今年は 54%となったことから、会議が充実していたと考えられる。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程、施設設備、広報各チーム毎に会合を重ね再編にのぞむ過程で首席が校内から育つなどミドルリーダーの育成が図られた。(◎)

府立りんくう翔南高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">三 心安らげる学校づくり</p>	<p>(1)「規範意識の高い学校」をめざす</p>	<p>(1)・全校一斉服装頭髪指導を意識させることで高校生として規範意識の再認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導による通学マナーの向上 ・声楽選択生徒による式典（始業式・終業式）での校歌斉唱 ・保護者との連携をよりすすめながら服装頭髪一斉指導を実施する 	<p>(1)・停学を伴う特別指導案件を8件以下にする（平成27年度17件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年総年間遅刻件数を5,000件以下に（平成27年度6,474件） <p>※生徒1人当たり9.3件（H26 8.5件）</p>	<p>(1)・停学9件。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7697回（授業遅刻・トイレ退室も含む）。(△) <p>※生徒1人当たり11.0回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式典での生徒全員の校歌斉唱を促すため、生徒代表によるパフォーマンスを引き続き追及していく。
	<p>(2)「美化意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。」</p>	<p>(2)・トイレ清掃を含めた学校内外美化活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動の充実 ・歯磨きスペースを利用しやすくし、生徒保健委員会を中心に啓発活動をすすめる。 ・性感染症防止教育などの推進 ・防災グッズの充実、防災・防犯（避難）訓練の見直しや府や市の防災訓練への協力 ・憩いの場として、中庭（噴水）スペースを整備する 	<p>(2)・トイレ清掃参加者を20人以上に（平成27年度8人）する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きをする生徒の割合を55%以上とする。 ・有志生徒による一斉通学路清掃参加者を在籍数の20%に（平成27年度15%） ・性感染症防止講演を引き続き毎年行っていく。（H27 肯定率72%） ・防災グッズや避難準備物を徐々に準備していく。 	<p>(2) トイレ清掃参加者2人。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きをする生徒は僅かではあるが、歯磨き粉ではなく口腔内洗浄液を使用する生徒が何名かあり（1%）。(△) ・一斉通学路清掃参加率2回とも在籍数の15%であった。参加者数を増やす努力を続ける。(△) ・喫煙防止教室、性感染症防止講演、薬物乱用防止教室などを実施し、それぞれ肯定率93%、92%、97%であった。(◎) ・防災用品充実のため、保存水500mlを240本、保存食240食分を備蓄した。また、市主催の避難訓練を本校（指定避難所）を会場に実施した。(◎)
	<p>(3)「部活動、ボランティア活動、生徒会活動などの特別活動の活性化」</p>	<p>(3)・外部講師を招へいするなど部活動、ボランティアや生徒会活動の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域中学校との交流をより一層深める 	<p>(3)・部活動参加生徒率を55%以上にする（平成27年度44%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動について、中学校との合同練習の回数を年20回以上にする。 	<p>(3)・部活動参加生徒率43%だが、インターハイに2名出場した。また、オリンピックのメダリストを招聘し部活動の活性化を促した。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生との合同練習については、バドミントン部を中心に20回以上行った。(○)